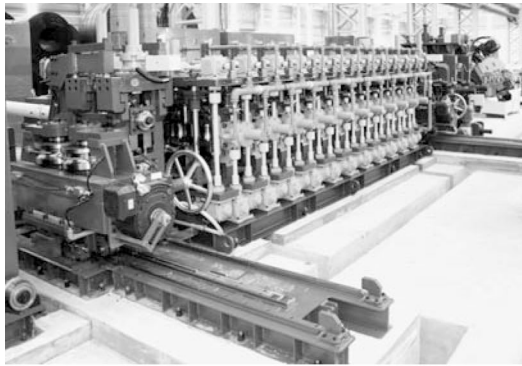


# ロール交換不要で高精度

## 中田製作所 角管成形機 小・中径用



中田製作所（大阪市淀川区、中田充社長、06・6303・1900）は、ロール交換

なしでさまざまなサイズの角形鋼管が成形できる角管成形機「ロールボックス」の小・中径用機を開発した。8ミル角以下の角形鋼管を高精度に成形できる。価格は仕様により異なる。

新型機の投入で建材など小・中径管需要の旺盛な東南アジア諸国連合（ASEAN）市場を開拓する。年3台の販売を目指す。新型機は直径10ミル以下の小・中径の丸形鋼管を2方ロールを用いて角形加工する。従来

金属加工企業に1台納入した。マレーシアの他企業からの引き合いもあるという。今後「学会発表などを経て本格的に拡販する」（中田社長）方針だ。同社は、冷間ロール成形機の開発製造を手がける。04年にコンビューター制御によりロール位置を変更できるロールボックス初号機を開発した。ロール交換が不要で、製作費やメンテナンス費を削減できると高評価を得て、これまでに約10台を納入した。主に直径12ミル以上と大型の丸形鋼管を角形に再成形する。同社の売り上げに占める海外比率は約8割。北米やロシアのシエールガス用パイプなど、大径管需要のある地域が中心だった。

マレーシアの金属加工企業に納入した小・中径用の角管成形機